

令和5年度 東久留米市立 第一小学校

学校評価報告書

学校教育目標	心温かく 光り輝け 稲穂のように	教育 ビジ ョン	【目指す学校像】	・児童が多様性を尊重しながら、自らのよさを発揮し、主体的、創造的に活動する学校 ・児童が安心して、学習したり、生活したりすることができる学校 ・教職員が主体的に課題解決し、危機管理意識をもちながら組織的に教育活動を展開できる学校 ・家庭・地域社会との相互理解・協力を図り、情報発信できる開かれた学校
	・自ら考え、表現する児童の育成 ・心優しく、思いやりのある児童の育成 ・自らの健康について考え、実践する児童の育成		【目指す児童・生徒像】	・自ら考え、表現する児童 ・心優しく、思いやりのある児童 ・自らの健康について考え、実践する児童
			【目指す教師像】	主体的に課題解決し、危機管理意識をもちながら組織的に教育活動を展開できる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	・市の研究奨励校の指定を受け、体育科の校内研究に取り組み、『「できると楽しい！」を実感し、進んで運動する児童の育成』をテーマに市内小中学校にその成果を発表することができた。 ・6年の全国学力・学習状況調査及び4、5、6年の東京都の意識調査において、理科については全国平均を上回る設問が多く、「理科が好き」「理科が得意」「理科に関する職業に就きたい」などの結果となった。一方、国語、算数においては全国平均を下回る項目が多かった。			

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標 (令和7年度までの3年間)	短期経営目標 (1年間)	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」			取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	人との関わり合いを大切にしながら、児童が自信とやる気をもって未来を切り拓くために、自分を大切にするとともに、相手を認め、尊重する態度を育成する。	積極的に児童を具体的な姿でほめ、認める態度を示すことができる。	①児童の良い点や頑張ったことをほめていたか。 ②進んで活動することを通して達成感を果たせたか。	満足・おおむね満足が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	A	A	B	・様々な特性を持った子供たちがたくさんいる中で、先生たちが一人一人に応じた対応をしていくのは難しいと思う。しかし、よさを伸ばしていく指導をたくさんして欲しい。 ・校外学習、社会科見学等、様々な体験活動に取り組み、子供たちを大事に教育しているのが伝わってきた。特に、社会科見学では、施設の方の一方的な説明だけでなく、教育効果を考えてプログラム等が組まれていて、とてもよい体験になる。 ・社会に出たときに役に立つ経験や学習を校外学習でしていることが分かった。このような体験学習をたくさん経験させてほしい。	全教育活動を通じて児童の豊かな心の育成に努める。特に、学習指導要領に示される育成すべき資質・能力の3つの柱のうち、「学びに向かう力・人間性等」についての育成に力を入れる。具体的には「あきらめずにやり抜く力」「他者とつながる力」「進んで伝えようとする力」を育成することを全教員が意識するとともに、授業だけでなく学校行事における活動後に、振り返りの時間を設け、児童の伸びを認めてフィードバックし、価値付けることで自己肯定感を高めていく。
2	I 健全育成	いじめ問題への対応	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	児童がいじめへの認識を深め、いじめに関する意識を変え、いじめ問題を主体的に解決しようとする態度を身に付けさせる。	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」とすべての児童が明言できる。	①安心して話したり相談したりできる児童との人間関係づくりができたか。 ②一小「SNS正しい知識と情報モラル」を基に、情報モラル教育ができたか。	満足・おおむね満足が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	A	A	A	校内いじめ対策防止委員会を中心として、各学級担任が学期に1回のアンケートや児童一人一人への聞き取りなどを組織的にを行い、いじめの早期発見・早期対応に努めている。校内いじめ防止基本方針を次年度に向けより実態に即したものに改定した。学校HPに掲載しているが、これを年度当初の保護者会において改めて周知する。そのことにより保護者と学校が連携してより確実ないじめの早期発見・早期対応に努める。また、朝のタブレットタイムを活用して情報モラルについては継続的に指導していく。	
3	I 健全育成	生涯にわたって育む健やかな体づくり	体力向上に関する指導の充実	健全な心の発達・成長とともに健やかな体を育むために、運動に親しむ習慣や意欲、体力づくりへの意識を向上させる。	運動が好きという児童を増やす。そのために、適切な生活習慣や食習慣の定着を図る。	①外遊びの推奨に取り組んだか。 ②マラソン月間、なわとび月間などにより運動の楽しさを味わわせられたか。	満足・おおむね満足が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	B	A	A	・次年度の取組について、保護者に対して、子供の成績等を伝える方法としては、個人面談の回数を増やすことはよいと思う。通知表の所見で一方的に伝えるよりは、面談で双方向的に話し合う機会があった方がよい。特性のある子たちが増えているので、クラスによって集中力が異なる、それは担任や子供のせいではなく、いろいろな問題が潜んでいることがある。紙では伝わらない部分が面談だと顔を見て詳しく伝えることができる。	2年間(令和4年度及び令和5年度)の体育科の校内研究で得られた成果を日々の授業実践で生かし、児童にとって「できると楽しい！」と実感できるような授業を工夫していく。特に、タブレット端末を活用して、児童が自らの動きを振り返ったり、教師が動画記録を基に指導改善を行ったりして、児童の技能や学習意欲を高めていく。また、体力テストの結果を基に授業改善の視点を見直していく。さらには、マラソン月間、なわとび月間などに児童が意欲的に取り組めるように、運営の仕方を工夫する。
4	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	授業では、めあてを確実に理解させ、対話的活動を取り入れながら、めあての達成状況を振り返らせることで学力向上を図る。	朝のモジュール学習では、漢字の繰り返し学習を中心にを行い、基礎・基本の定着を図る。	①めあてを理解させ、対話的活動を取り入れながら、めあてを振り返る授業を行ったか。 ②朝のモジュール学習では、繰り返し指導を行い、学力の向上は図れたか。	満足・おおむね満足が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	A	B	B	授業では、めあてを十分に理解させ学習意欲を高めるとともに、対話的活動、体験活動、操作活動を積極的に取り入れて深い学びにつなげる。朝のモジュール学習では、漢字の繰り返し学習を行い、基礎基本の定着を図る。タブレットタイムや家庭学習でタブレット端末を活用させ、個別最適な学び、協働的な学びを通して基礎・基本の確実な定着を図る。また、高学年に教科分担当を導入し、教師の専門性を生かし、複数の教師の目で児童を見取り良さを伸ばし、チーム学年として確かな学力を育成していく。	
5	II 学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	タブレット端末を活用して、調べ学習やドリル学習などの個別最適化された学習を推進する。	全学級で、タブレット端末を活用した授業展開が三割程度できるようにする。	①いずれかの教科でタブレット端末を活用した授業展開ができたか。 ②ICT機器を活用して児童の思考力・表現力・判断力の育成を図ることができたか。	満足・おおむね満足が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 41%未満	B	B	A	・いろいろな活動に取り組むことで、先生方が忙しくなっているのではと心配である。 ・今年度の花いっぱい運動のように子供たちと青少協でできることは取り組んでいきたいと思う。花を校庭の花壇に植えることで、皆から活動の様子も見られるし、ぜひ続けていきたい活動である。	授業では、実部投影機やタブレット端末を活用して、児童が主体的、効果的に発表や説明ができるように指導方法を工夫していく。週1回のタブレットタイムで児童の技能及び学習意欲を高め、校内ICT委員を中心にICT支援員を活用して教材開発や授業支援をすすめる。確かな学力を育成していく。また、家庭学習でタブレット端末を活用させ、eライブラリや様々なアプリの活用を通して主体的な学びにつなげていく。
6	II 学力向上	確かな学力の育成	英語教育と国際理解教育の推進	英語を使つてのコミュニケーションに慣れ、英語を使つてすすんで表現しようとする力を培う。	年間計画に即して、高学年70時間の外国語、中学年35時間の外国語活動を規定通り実施し、英語を使つたコミュニケーションに親しむ。	①年間指導計画に即して、ALTの力を借りながら担任がメインティーチャーとして授業を進めることができたか。	満足・おおむね満足が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	B	B	A	児童の学習状況を見ながら指導計画に即して毎時間の指導方法を工夫していく。ALTを効果的に活用して音声を中心に基本的な表現に慣れ親しませコミュニケーション能力を育成し、「使える英語」を習得させる実践的な授業を推進し、国際社会において活躍できる人材の育成を図る。また、デジタル教材を活用しながら、チャンツを行ったり、外国の文化や特色を理解させたりして、外国語に対して興味を高めていく。	
7	II 学力向上	確かな学力の育成	教員の授業改善、指導力の向上の推進	教員一人一人が、主体的・対話的で深い学びのある活動を取り入れた授業力をも身に付け、児童にとって、わかる・できる授業を目指す。	教員一人一人が、ねらいや学習内容を明確にした「わかる・できる授業」を日常的に行う。	①ねらいや学習内容を明確にした「わかる・できる授業」を実施することができたか。 ②学期に1回以上、自分の授業を他の教員に公開し、助言を求めたか。	満足・おおむね満足が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	B	B	B	校内研究を生かした実践、日々の教材研究の充実や模範授業参観等による授業改善、OJTや職層研修を活用した人材育成、授業研究の公開等を通して教師一人一人の指導力を高める。また、ねらいや学習内容を明確にした「わかる・できる授業」を実施できるように、教員相互の授業観察を行ったり、放課後15分間のOJTを行ったりして指導力を高めていく。さらには、学期に1回以上、自分の授業を他の教員に公開し、助言を求めるように工夫していく。	
8	II 学力向上	日本人としての自覚と豊かな国際感覚をもつ人材の育成	伝統と文化の理解の推進	日本人としての自覚と誇りをもち、世界の中の日本の役割について興味・関心をもち主体的に学ぶ態度を養う。	学校2020レガシーとして、日本の伝統文化に関わる活動を実施し、日本人としての自覚と誇りを醸成する。	①日本の伝統文化に関する学習を各学年の発達段階に合わせて、年間2回以上実施できたか。	満足・おおむね満足が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	A	B	A	学校2020レガシーに向けた、地域の行事、音楽(琴に親しむ)等日本の伝統文化の伝承に関わる取組を行うとともに、地域・保護者に向けてホームページ、お便り等で発信していく。和楽器の演奏者を招いた鑑賞の授業を行ったり、運動会で東久留米音頭を踊ったり工夫していく。地域の方々に伝統芸能や手工業に携わる方々などを招聘し、より幅広く日本の伝統文化に触れさせたい。また、昔遊び、百人一首などの伝統遊びにも取り組ませていく。	
9	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	地域の教育資源を活用しながら、教科横断的な学習に取り組み、地域を大切にすることを育むとともに、主体的・対話的で深い学びにつなげる。	地域の教育資源や外部人材を活用した教科横断的な授業を積極的に実施する。	①地域の教育資源や外部人材を活用した教科横断的な授業を年間2回以上実施できたか。	満足・おおむね満足が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	A	B	A	地域の方と花を植えたり、落合川の学習を通して交流したり、海外在住の方とteamsを活用して交流したりして、地域等の外部人材を積極的に活用していく。また、地域の団体による理科実験教室や禁煙キャラバンや学校薬剤師によるたばこや薬の授業も継続していく。さらに市や都の事業を活用し、外部人材による特別授業を実施し、児童の学習意欲を高めていくとともに、生き方を学ぶ機会を設け、自分自身の進路について考えさせ、社会的・職業的自立に向けた基盤となるキャリア教育の充実を図る。	
10	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	障害の状況に合った、特別支援教室の指導の充実と、適正就学を実施する。	障害の状況に合った、特別支援教室の指導の充実と、適正就学を実施する。	①特支校内委員会を中心に、全校体制で支援に取り組んだか。 ②支援計画・支援ファイルを活用し個々に合った指導ができたか。	満足・おおむね満足が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	A	B	B	特別支援教育コーディネーター、ポプラ教室の巡回指導教員、担任を中心に、児童一人一人の特性や困りに寄り添った特別支援教育の在り方について、議論したり情報共有したりしていく。特別支援教室拠点校としての特色を生かし、巡回指導教員、スクールカウンセラーの専門性を活用した児童の見取りと支援を通常学級にも波及させる。さらにスクールソーシャルワーカー、市の相談室、巡回心理士、子供家庭支援センター等の外部機関も活用した総合的な相談体制の充実を図る。	